

人と環境にやさしい交通をめざす全国大会

交通まちづくり新聞 特別企画

広島大会いよいよ開催

交通まちづくりの広場は、2026年3月14・15日、広島市において「第12回人と環境に優しい交通をめざす全国大会in広島」を開催する。広島は2025年夏に、路面電車が広島駅ビルの2階に乗り入れたことで注目されているが、ほかにも都心部のまちづくりにおいて注目すべき事例も多い。一方で、交通をテーマにしたシンポジウムなどの開催事例は少なく、本全国大会には多くの注目が集まっている。また本大会は同大会では首都圏から最遠部での開催となる。

そのため本紙では遠方からの来広者に向けて、広島の魅力や注目点を伝える特別紙面を編成し「カープとお好み焼きだけじゃない広島」をテーマにお伝えする。

交通見本市？

まず知っていただきたいのは、広島は交通見本市のような街だということ。JRは新幹線と電化および非電化の在来線があり、特に可部線は一度廃止された区間が復活するという、全国的に見ても稀有な事例で知られる。新交通システムとしてアストラムラインがあり、都市交通としては路面電車や多くの路線バスが運行されている。特に路線バスは、我が国初の国産路線バスが走った街とされ、当時のバスを復元した「かよこバス」はJR横川駅前に展示されている。また、路面電車は地方鉄道

である宮島線との直通運転を行っており、世界のトレンドであるトラムトレインは、60年以上前から運行されている。世界遺産厳島神社のある宮島には、循環式と交走式のロープウェイがあり、宮島へ渡る連絡線は青函連絡船や宇高連絡船なき今、JRグループ唯一の連絡船である。瀬戸の島々や四国松山を結ぶフェリーやスーパージェットも数多く運航され、現在は電気バスに転換されたものの、2024年まではスカイレールも運行していた。都心部ではシェアサイクル「びーすくる」も活用されている。そして自動車メーカーの城下町でもある。このように多彩な交通モードの集まる広島を効率よく移動するために、ぜひとも活用していただきたいのが「広島たびバス」だ。

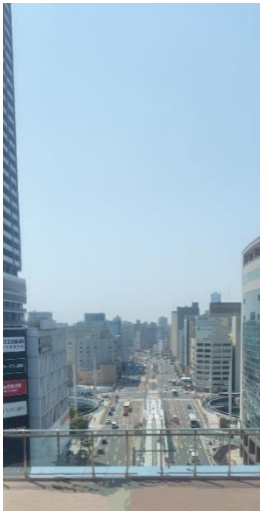
広島たびバスで 快適に広島めぐり

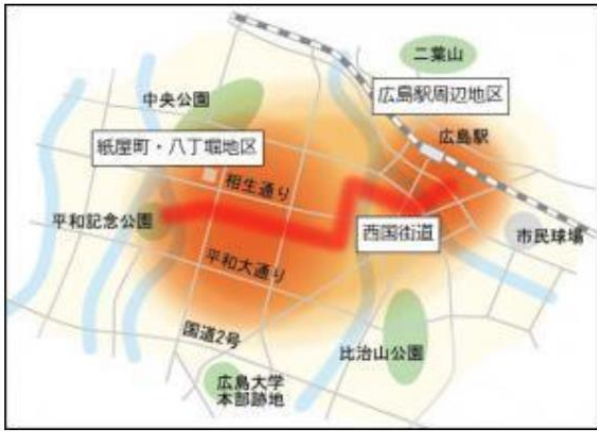
広島たびバスは広島電鉄の電車全線、宮島航路、中心部エリア路線バス6社が乗り放題。2日間有効で1500円の紙券と48時間有効で同じく1500円のデジタルチケットがあり、おすすりは後者。スマートフォン画面を乗務員に提示するだけで、簡単に利用できる。全国大会2日目の研究発表会場（広島工業大学五日市キャンパス・宮島線の楽々園駅）から徒歩15分への移動にも使える。さて広島駅の改札口を抜けると、路面電車が目に飛び込んでくる。駅ビルへ乗り入れることで抜群の結節性を実現しているのだが、先を急ぐのでなければ新しくなった広島駅ビル「ミナモア」を観察してみよう。路面電車のターミナルは、大きく吹き抜けとなった中央アトリウム空間にあり、とても開放的だ。その中央アトリウムには左右から見下ろすように、雁木テラスが用意されている。雁

広島たびバス
Visit Hiroshima
Tourist Pass
 Hiroshima Tabi-Pass

木テラスに腰掛けて、頻繁に出入りする路面電車を観察すると、時間が過ぎていくのも忘れてしまう。ご覧いただきたいのはほかにもある。水面(みなも)のきらめきを表現した壁面や天井だ。そしてミナモアの7・8階にある大階段にも訪れていただきたい。ダイヤモンドクロスのある稲荷町交差点から、駅前大橋を直進して行く路面電車を見下ろせる特等席だ。

ところで、太田川の河口に広がるデルタに発展した広島だが、その玄関口である広島駅は、行政機能のある中心部から離れたデルタの外側にある。明治期に敷設された山陽本線は、広島城のお堀りがあり地盤の悪いデルタ部を避けて敷設されたからだ。広島駅と中心部を結ぶ





役割は、大正元年に開業した路面電車が担っている。原爆で壊滅した市街地は、高度成長期に整備されたため、同時に老朽化を迎える建造物も多く、近年の広島は紙屋町や八丁堀などの中心市街地と広島駅とを「楕円形の都心づくり」として一体的な再整備を進めている。その中でも、旧広島市民球場跡地に整備された「ひろしまゲートパーク」やサッカースタジアム「エディオンピースウイング広島」と「ひろしまスタジアムパーク」、そして広島城三の丸や県庁前など、中央公園エリアにはぜひ立ち寄っていただきたい。路面電車を原爆ドーム前で下車すれば、北側にはひろしまゲートパーク、南側には原爆ドームと平和公園がある。その他のスポットは表を確認していただきたい。

楕円形の都心のイメージ

交通見本市のような街広島は、実はB級グルメの宝庫でもある。全国的に知名度の高いお好み焼き(広島人は広島風お好み焼きとは言わない)のほか、汁なし担々麺や激辛つけ麺がある。汁なし担々麺は花椒の刺激が特徴で、とにかく混ぜて混ぜて食す。最後に白ご飯や温泉たまごを加えてもよい。激辛つけ麺は辛さの調節が出来るので、最初は基本の辛さから試してみよう。茹でたキャベツなどの野菜もたっぷり添えられているので、激辛と名付けられているものの、実はとてもヘルシーなのも特徴だ。広島ラーメンは醤油豚骨が基本だが、尾道の鶏ガラ魚介



系も外せない。魚のすり身にとがらしを入れて揚げた「がんす」は酒肴にピッタリなのだが、パンに挟んでホットサンドで食べるのもオススメ。牡蠣だけではなく、7回洗えば鯛の味と言われる小イワシの刺し身や、瀬戸の小魚も広島海の味だ。そしてコウネを忘れてはならない。コウネとは牛の肩バラ肉の一部。広島人は焼肉店に行くときタン塩ではなく、まずはコウネから焼き始める。注意するのは焼き過ぎないこと。すぐに炎を上げるので、20秒ほどでOK。タレはつけずに塩コショウでどうぞ。焼肉店や居酒屋などの飲食店で「とりあえずビール」ではなく「タチマチビール」と言えば、あなたはもう広島人。





東京方面から新幹線で来ると、広島駅到着直前は左側の車窓に注目していただきたい。広島カープの本拠地マツダスタジアムが見える。全国大会開催日はマツダスタジアムでオープン戦も行われるので、広島駅に降り立つと、赤いユニホーム姿のカープファンの多さに驚かれるかもしれない。実は交通まちづくりと広島カープには密接な関係がある。カープ優勝花電車だ。花電車は路面電車の特権。ラッピングは世にあふれても、花新幹線や花地下鉄はない。プロ野球12球団の中で、優勝花電車が走るのは広島だけ。派手に飾り付けされ、応援歌「それ行けカープ」を流しつつ走る花電車は、カープファンでなくとも駆け寄ってカメラを向けられ注目の的となり、街が大きく華やぐのだ。残念ながら2018年から運行されていないので、全国大会に参加される方は、交通まちづくりのために今年は広島カープを応援していただきたいものだ。



最後に、広島市の広域観光も紹介しよう。

日本三名橋に数えられる、五本の反り橋で有名な錦帯橋。錦帯橋のある岩国は、岩国市出身の作家・宇野千代をモデルにした2026年秋放送 NHK連続テレビ小説「ブラッサム」の舞台となる。

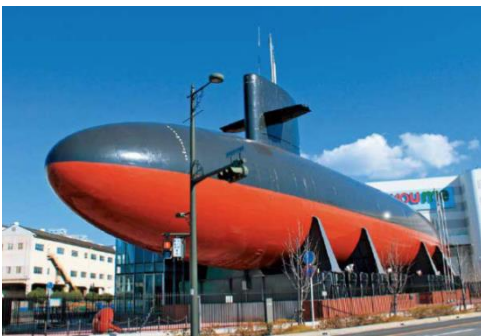
呉で人気の大和ミュージアムは、三月末までリニューアルのため休館しているが、本物の潜水艦を展示している「てつくじら館」や大和ミュージアムサテライトもある。呉冷麺や海自カレーなどの呉グルメもお忘れなく。

広島駅から山陽本線で東に進むと、最大2.6パーミルの急坂で有名なセノハチを越えた先に、東広島市の西条がある。七つの酒造会社が集まり、赤レンガの煙突が並ぶJR西条駅周辺。西条は酒

都とも呼ばれ、日本三大名醸地の一つに数えられている。注目の自動運転バス隊列運行実験も行われている。そして、再構築協議会も設置され、全国の赤字ローカル線から注目されている芸備線や、備後落合駅で芸備線と接続する木次線の三段式スイッチバックのある出雲坂根にも、ぜひ訪れていただきたい。

魅力いっぱいのは広島は、わずかな紙面では紹介しきれない。駅前大橋ルート開通とともに廃止となった猿猴橋町電停の横には被爆ポンプがある。稲荷町ダイヤモンドクロスは交差点の架線にも注目。原爆で倒壊したあと、鉄筋コンクリートで外観復元された広島城は、全国大会直後の3月22日をもって閉城となる。

原爆ドームや平和公園と資料館は外せない。おりづるタワー・広島市郷土資料館・縮景園・スマジ交通ミュージアム・マツダミュージアムといった文化施設もあり、広島バスセンター・コイプレスもまちづくり視点で見えておきたい。本紙が広島訪問の参考になれば幸いだ。



研究発表大会会場

広島工業大学五日市キャンパスへのアクセス



踏切横に昭和10年廃止の隅之浜駅構造物が残っている

電車

広電（広島電鉄）宮島線「広電宮島口」方面行きに乗車

↓

「楽々園」下車

↓

徒歩15分